



愛川ふれあいの村 11月の風景

平成30年11月 自然のたより

イチヨウ並木の黄葉が朝の光でキラキラと輝いています。今年は暖冬の影響なのかイロハモミジの紅葉は遅れていましたが、このところの朝夕の冷え込みで赤やオレンジ色に美しく染まりはじめます。ジョウビタキやシメ、ツグミたちも渡来してきて、紅葉と冬鳥を同時に楽しむことが出来るかもしれませんよ。



ビワとアカタテハ



カワラヒワの群れ



ウバユリ



リンドウ



サラシナショウマ



ツグミの幼虫とアゲハ（蛹）



クマズムシ



イカル



だ〜れだ(ムシホリアツガバチ)



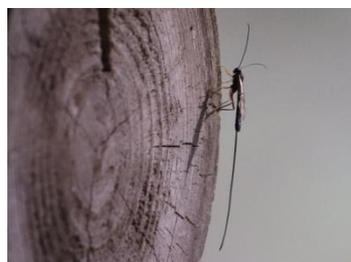
アゲハ類、ハチの隙間へ産卵



コウテイダリア



ハナノキ



シロフオナガヒメバチ



マユタテアカネ



トビナナフシ

◆紅葉のシーズンになりました◆

～紅葉と紅葉？モミジとカエデ？～

11月に入り朝晩は肌寒くなり、日が落ちるのが早くなってきました。村の木々は紅葉のシーズンを迎え、落葉までもが私たちの目を楽しませてくれています。

紅葉とは、落葉樹の葉が落ちる前に、赤色または黄色に変わることです。赤く色を変えるものを“紅葉”（こうよう）、黄色に変わるものを“黄葉”（おうよう）、茶色に変わるものを“褐葉”（かつよう）とも言います。これらを含めて紅葉と呼ぶことが多いですね。

さて、漢字で紅葉と書くと“こうよう”と“モミジ”の2つの読み方ができます。“こうよう”は葉の色が変わる自然現象のことで、“モミジ”は赤く色づいたカエデ属の葉のことを言います。同じ漢字でも意味が違うのは不思議ですね。

では、モミジとカエデの関係はどうでしょうか。カエデ属の植物は100種類以上あり、分類上ではモミジもカエデも同じ仲間です。この仲間にはメープルシロップで有名なサトウカエデも含まれます。

一般的には、「〇〇モミジ」と名付けられたものは葉の切れ込みが深く、小ぶりでも可愛らしい形で、鮮やかに紅葉するものが多く、「〇〇カエデ」と呼ばれるものは葉が大きくて切れ込みが浅く、黄葉するものが多いそうです。

これからの時期は秋から冬へと移り変わっていきませんが、紅葉のシーズンもあとわずか。色の変わり方や葉の切り込みにも目を向けてみてはいかがでしょうか。

（渡部）



★小茶台茸★

これは小人のコップ！ではなく『コチャダイゴケ』というキノコです。コップの中には茶色い粒（中には孢子がたくさん入っている）が詰まっています。雨水がコップの中に入ることによって茶色い粒が飛び散るといって少し変わった方法で生息範囲を広げます。大きさは1cmに満たないため、よ～く探さないと見つかりません。落ち枝や枯れ木などに発生し、紅葉狩りが盛んなこの時期、上を見上げるのに疲れたら、足下を観察して探してみてください。キノコや苔などミクロな世界が私たちを楽しませてくれるはずですよ。（清水）

土留めのコチャダイゴケ▶



★むかご★

ハート形の葉を持つヤマノイモ（山芋）のつるをよく見ると小さな茶色のつぶつぶが沢山ついています。これは『むかご』といい、食べることができます。むかごは地面に落ちると新しく芽を出すことから、栄養が豊富なことが分かります。量が採れず貴重ですが、消化を助けるアミラーゼやアルギニンを含み、山のうなぎと呼ばれています。その他にも多くの栄養素が含まれるため、体にいいです。天然の恵みをいただいています。いかがでしょうか。

（佐々木）



◎ 十二月の

注目ポイント◎

冬の星がきれいに見えるのは、なぜだか知っていますか。

理由は二つ、気圧配置の変化と日照時間の減少です。春夏は太平洋側からの湿った空気が入りますが、秋冬は日本海（大陸側）から乾いた空気が流れ込むため、空気中の水蒸気が少なくなります。また、日照時間が短くなり地表温度が下がると、上昇気流が起きにくくなり、チリの飛散が抑えられます。つまり、空気中の水蒸気やチリが少なくなることで、空がきれいに見える訳です。

十二月四日から十二月十七日は双子座流星群があります。十四日は、一時間あたり百二十個もの流星が見えるそうです。これからはますます空気が澄む季節。きれいな空を見上げて過ごしてみませんか。（鷺山）



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・石川雄馬

編集：吉田文雄・石川雄馬・大谷遼



愛川ふれあいの村で、検索★